

## 国立大学法人弘前大学学長の業務執行状況の確認について

平成31年2月21日  
国立大学法人弘前大学  
学 長 選 考 会 議

国立大学法人弘前大学学長選考会議では、佐藤敬学長の任期が2年を経過したことから、学長の業務執行状況の確認に関する基準（平成28年1月7日学長選考会議決定）に基づき、平成30年12月13日に佐藤敬学長に対して書面審査及び意見交換を実施し、業務執行状況の確認を行った。

佐藤敬学長に対する業務執行状況の確認結果は、下記のとおりである。

### 記

佐藤敬学長は、「国立大学法人弘前大学の将来構想と具体的方策」の実現に向けて優れたリーダーシップを発揮し、期待される業績をあげ、適切に業務を執行していると認められる。

学長選考会議としては、佐藤敬学長には「国立大学法人弘前大学の将来構想と具体的方策」を実現するべく、引き続き弘前大学長として諸課題に取り組んでいただくことを期待する。

以上

【学長選考会議における主な所見】

- ・健康，食，被ばく医療，再生エネルギーの分野における地域との連携強化，留学生の増加による国際化，教育研究分野の組織改革，入学者確保並びに財源確保について成果を上げてきた。これは教職員の努力と共に，学内における学長としてのリーダーシップによるものと考えられる。今後は附属病院の経営とリスク管理における強力なリーダーシップを期待する。
- ・第3期中期目標・中期計画期間中，弘前大学を含めた全国の国立大学法人が大学運営という観点からきわめて厳しい状況に直面している中で，「地域活性化の中核的拠点」としての弘前大学の機能強化等の面において，学内外の期待に十分に答える成果を上げていると判断される。とりわけ，教育研究組織の再編を含めた一連の組織改革・制度改革等をはじめとして，大学や地域のグローバル化の推進や，地域社会との緊密な連携のための具体的な方策等の立案と実行に積極的に取り組んできた点は非常に高く評価されるべきである。
- ・弘前大学の将来構想と具体策に基づいて教育研究や国際化の推進などに大いに成果が認められている。国際化については，留学生数の飛躍的な増加などが認められ，特筆すべき事項と考えられる。
- ・第3期中期目標・中期計画の課題解決はもちろんのこと，ミッションの再定義等を踏まえた改革が着実に進められており，また，将来を見据えた大学運営の課題への意識が高い。
- ・地域活性化の中核的拠点としての機能の充実と連携強化が十二分に認められ，学長への信頼関係が寄附金の大幅な増加にも反映されていると思われる。
- ・「望まれる学長像」に掲げられた5項目ならびに「弘前大学の将来構想」にある7項目のすべてに取り組み，期待される以上の成果が認められる。
- ・地域での認知度や貢献は十分だと思われるが，全国的，世界的に「弘前大学」の知名度が向上するように，より一層の情報発信を期待したい。